

2021年度 「学生プロデュース」実施結果報告書

1 プロジェクト名

第2回 あおぞら 陶芸教室 -陶芸教室から学ぶ図画工作-

2 実施日程

令和3年 10月 20日(水) 紐づくりのコップ制作と板づくりのお皿制作

10月 27日(水) 釉薬をかけよう・絵付けに挑戦

11月 10日(水) 作品の鑑賞会

3 実施内容

学生に向けた陶芸教室実施（合計3回）

◆10月 20日(水) 紐づくりのコップ制作と板づくりのお皿制作

—コップ制作について—

粘土（約1~3kg）を一人ひと塊ずつ配る。紐づくりという技法を使って当初はコップを作る予定だったが、参加者からどんぶりを作りたいという声が多く上がり、今回はどんぶりを作ることにした。紐づくりで作っていく中で、参加した学生たちは縁が倒れないように粘土の厚さを薄くしたり、粘土の塊を作ってどんぶりの縁が下がってこないように工夫していた。

—皿制作について—

まずは粘土を荒ねり（粘土の硬さが等しくなるように練る活動）を行い、板と伸ばし棒、切り糸を使って粘土を同じ厚さの板状にしていく。好きな形にワイヤーやクシなどで切る。外でとってきた植物を使ったり、自分の好きな模様をつけたりしてお皿としてデザインしていく。



◆10月 27日(水) 釉薬をかけよう・絵付けに挑戦

素焼きしたお皿を手元に用意して、釉薬の仕組みと今回の絵付けで使用する呉須について簡単に説明した後に、釉薬や呉須を使って自由に装飾をする。



◆11月 10日(水) 作品の鑑賞会

ほかの人の作品を鑑賞した。一人一人、どういう意図や思いで作ったか、どんなところを工夫したのか発表しながら鑑賞会をした。思い出になるように作品集を作って配布した。



4 新型コロナウイルス感染拡大防止の工夫

窓を開け、ファンや扇風機を回しながら活動するなど、換気を徹底して行った。今回の参加人数が4名だったため、密を避けて活動ができた。マスク、ハンカチなどを各自で準備しておくように呼び掛けた。道具の使いまわしを他人としないように道具を人数分準備して各机にはアルコールを用意した。検温は各自してもらい、参加者に陶芸教室の前に記載してもらい、検温をし忘れた人は当日検温した。

①指導者は常にマスクを着用し、手指や共用する使用道具の消毒。

参加者がマスクを忘れた場合に備えて予備のマスクを用意した。

②密集密接を避け、講義室の大きさに適した参加人数の設定

向かい側に人が座ることを避け1テーブル2-3人ずつ座ることで密を避けた。今回は参加者が4名だったため、1つの机で2名ずつ活動した。

③道具の使いまわしの方法（道具などの追加購入の必要）について

活動前と活動後、道具はアルコール消毒を行った。道具の使いまわしがないように留意した。

④指導のときのソーシャルディスタンスを保つ方法について

マスクを着用し、十分な距離をとって説明などを行った。

⑤配布物の有無と準備方法について

道具などの準備は構成員で事前に行っておく。作品集（配布物）は最終日に1冊、構成員から配布した。

5 経費の使途

令和3年度学生プロデュース企画 予算管理

企画名:あおぞら陶芸教室

採択額	¥63,000
執行金額	¥17,024
残額	¥45,976

品名/内容	規格	数量	単位	執行金額
カラーコピー用紙	コクヨ LBP-FH1810	4	個	3,080
切りはりがね	新日本造形 254-331	10	個	2,904
仕上げ用革(なめし革)	新日本造形 254-361 100mm角	1	個	215
USBメモリー	エレコム MF-HSU3A16GBK	1	個	1,683
上信楽	ビニール	2	式	5,610
テラコッタ	ビニール	1	式	2,860
印刷代(ポスター)				72
印刷代(冊子)				600
合 計				執行金額 ¥17,024

6 プロジェクトの成果

●企画概要

本学には陶芸ができる施設があるが美術科以外の学生が陶芸に触れる機会が少ない。伝統工芸やモノづくりの楽しさを知ってもらう事で教育活動に活かさないかと学生が企画した。本企画は第2回目である。電気窯や工房棟を利用して本学の学生に向けて陶芸教室を行う。日常で使っている陶器がどのような仕組みでできるのか、粘土という素材に触れ合ったり、釉に含まれる鉱石が焼成されて色に変化する仕組みを学び、作ることの楽しさを感じてほしいと思い企画した。

今回のプロジェクトの目的として参加者には以下の3つの成果を目的としていた。

- ものづくりの楽しさを感じる。
- 自由に創造することの楽しさや素材の可能性と陶芸の知識と技術を身に着ける。
- 実際に自分が作ったものを使うことで、工芸の文化への親しみをもち、日常生活にある美術や工芸に関心を持つ。

▽アンケートについて

昨年度の報告会にて、「毎回アンケートをとることで参加者の学びの様子を知ることができるのではないか」という意見があった。本年度は、活動ごとに3回アンケートを実施した。

どのような学びや楽しさがあったのか、どのような働きかけが効果的だったのかや、アンケートから改善点などを振り返る。

10月 20日(水) 紐づくりのコップ制作と板づくりのお皿制作

陶芸教室の満足度はどうでしたか

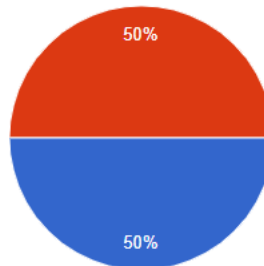
4件の回答



- 満足
- やや満足
- どちらともいえない
- やや不満
- 不満

陶芸の知識は深まりましたか

4件の回答



- 深まった
- やや深まった
- どちらともいえない
- あまり深まっていない
- 深まっていない

何か要望がありましたら回答をお願いいたします。

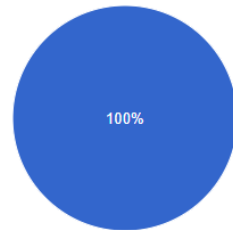
1件の回答

工房棟に入る機会がほとんどないので、釜の見学もしてみたいです。

10月 27日(水) 釉薬をかけよう・絵付けに挑戦

陶芸教室の満足度はどうでしたか

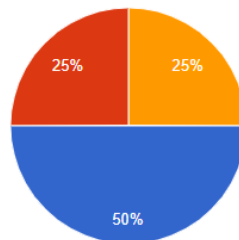
4件の回答



- 満足
- やや満足
- どちらともいえない
- やや不満
- 不満

陶芸の知識は深まりましたか

4件の回答



- 深まった
- やや深まった
- どちらともいえない
- あまり深まっていない
- 深まっていない

ひもづくりの作品の題名と、作品に対する思いや工夫した点、制作時の感想など教えてください。

4件の回答

題名：1人鍋

1人で鍋をする時ちょうどいいサイズになるようにしました。また、サラダなどを盛っても良いなと思いました。

『米』

丼物やお茶漬を食べる用に作ったので稲や米の絵を描きました。あとおにぎりも。

気づいたら薄くなりすぎて穴が空いてしまうのが大変でした。

『ひとり暮らしの強い味方』

ひとり暮らしをしていると、料理をするのが面倒で、レトルトで済ます日が多いです。あったかご飯の上にレトルトをかけて食べるための、おひとりさまに寄り添ってくれる食器をつくりました。模様は、私のイニシャルの”M”をデザインっぽくしてみました。厚さを揃えながらお椀型にしていくのが難しかったのですが、これから愛用していきたいと思います。

題名は、カメカメお茶碗です。

私は亀が大好きなので茶碗の至る所に亀を散りばめてみました。

特に茶碗の内側には種類の違う土が埋め込んであり、釉薬で描くのはまた違った亀がいたりします。

ひもづくりは以前にもやったことがあったのですが、バランスを取りながら積み上げるというのがやはり難しくも楽しかったです。

板づくりの作品の題名と、作品に対する思いや工夫した点、制作時の感想など教えてください。

4件の回答

題名:甘いもの好き

ケーキなど甘いものが好きなのでケーキの形を模しました。また植物を使いたかったので、葉と花を使ってケーキのトッピングっぽく見えるようにしました。

『花と葉』

綺麗に跡が出そうな植物を探すのが楽しかったです。輪郭などは上からなぞって目立たせました。

『和』

焼き魚やお刺身、お寿司を乗せるお皿です。ひとり暮らしはなにかと食生活が乱れて、とりわけお魚からは遠ざかりがち…。そんな私に私から、お肉だけではなくお魚も食べようね、という気持ちでつくりました。お皿にヒビが入ってしまうハプニングもありましたが、それも含めてとても思い出のある作品になりました。

題名は、お魚です。

焼き魚等を乗せるお皿をイメージして、平たく作ってみました。鱗は花びらを押しつけて再現しています。

葉っぱなどを押しつけて模様にするのがとても新鮮で楽しかったです。焼き魚を想定して作りましたが、実際に使えるかどうかはまだ分からないので、使ってみるのが楽しみです。

その他に作品がありましたら、その作品の題名と、作品に対する思いや工夫した点、制作時の感想など教えてください。

2 件の回答

ピアス (あざらし) 題名:あざらし

あざらしが好きなのでアザラシ型になるようにしました。

ピアス題名:ツートン

ツートンカラーの作品をなにか作りたいと思い、ピアスで作ることにしました。

『メタモン』

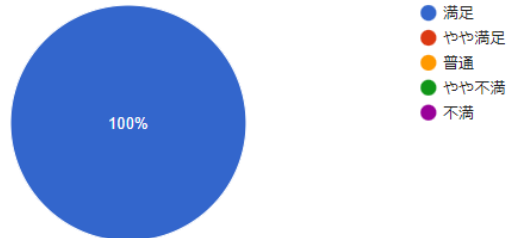
その名の通りメタモンのお皿をつくりました。平たいお皿でありつつも、カーブしているところはしっかりくぼみをつくって動きがあるように見せました。図工・美術は不得手なのですが、これは我ながらうまくできたなあと思っています。”メタモン が つぶらな ひとみで こちらを みている…!”

『ノープラン』

完全ノープランで勢いでつくったら、ベタな作品ができました。花びらをしっかりつくってから縁取りをしたので、学校の掲示物にありそうな(笑)、かわいいお花になりました。縁をしっかりやすりがけしてなめらかにしたので、よりやわらかい、優しい印象に仕上がったと思います。

全体的な満足度をお願いします。

4件の回答



あおぞら陶芸教室に参加した感想をお願いします。

4件の回答

陶芸自体が初めての体験だったので、大学生活の最後に経験できてとても良い思い出になりました。

陶芸は乾燥させたり釜で焼いたりするので時間はかかりますが、完成した時の喜びはひとしおで、私も完成したものを取った時とても嬉しかったです。

土を使って一から形づくりたり、模様をつけたり、釉薬をかけたりと、それぞれに難しさがあり楽しさがありました。とても貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございました。

授業で使ったものとは種類の違う粘土にも触れることができ楽しかったです。

また陶芸について先輩から様々なお話を聞けるなど、ためになる事が多くありました。

参加して本当に良かったと思っています。楽しい経験をありがとうございました。

初めて陶芸に挑戦しました。形を作るのが難しかったですが、一生懸命ものづくりに取り組む経験をする事ができて良かったです。

普段なかなか粘土に触る機会もないので楽しかったです。また、人数が少なかったこともあり、丁寧に教えていただけただけでありがたかったです。

あおぞら陶芸教室で得た学びがありましたらお願いします。

4件の回答

今までなんの気なしに見ていた陶芸作品でしたが、実際にやってみると指先の繊細さが必要で、環境や調合によって出来が大きく左右されるものだとわかり、きれいに作品が仕上がることは奇跡なのだと感じました。

また、土により釉薬をかけた時の仕上がり色がかなり違い、そこにも陶芸の面白さがあると感じました。

種類の違う粘土たちを同時に使う時の注意点や対処法が学べました。陶芸の授業の中でもここで学んだことを試してみようと思います。

陶芸について学ぶことができました。陶器を見たり手に入れたりする際の陶器の見方がこれまでとは変わって様々な気づきを得られそうです。

粘土や釉薬の種類や色の違いなどを知ることができました。

▽振り返りと今後

参加者からは高い満足度だったという回答が得られた。しかし、昨年度同様、知識が深まりましたかという質問に対して、2回目の活動では「どちらともいえない」という回答があった。陶芸体験だけではなく、その知識が身につくような展開を今後も模索していく必要がある。

また、本年度は参加者が4名であった。昨年度の参加者が20名を超えていたことと比較すると大変少ない人数であった。興味はあったが参加していないという学生に聞き取り調査を行ったところ、水曜日の午後にガイダンスや授業があるため参加できなかったという事であった。昨年度は土曜日に実施したが、本年度は構成員の授業や都合上水曜日に実施した。今後の企画は日程も考えていかなければならない。

本年度の構成員は全員卒業で、来年度引き継ぐ学生がいないため、あおぞら陶芸教室は本年度で終了となる。しかし、昨年度の活動報告を受けて地域の方から「地域に陶芸用の窯があるが、どのように活用していけばよいかわからなかった。そんなとき、この学生企画の活動を見て、陶芸教室に活用できるんじゃないかと思った。新型コロナウイルスが落ち着いたら、ぜひ地域で陶芸教室をしてほしい。」などの意見を数件頂いた。各構成員が卒業してからも本活動を活かして地域などに向けた陶芸教室へ展開していきたい。